

平成26年11月23日
プレーオフのベストショット



奈多グラウンド 三苦ホーネッツ 対 奈多サンデーズ 平成26年度優勝決定戦

平成10、11年度奈多クラブ以来2チーム目の連覇を達成した奈多サンデーズ田中孝幹監督の胴上げ

写真：編集部長 レッドサンデーズ 八島久徳

奈多グラウンド 死闘の末、奈多サンデーズ2連覇達成！

三苦ホーネッツ（11勝1敗1分）120000 3 矢野●ー広木

奈多サンデーズ（11勝1敗1分）400001X 5X 塚本○ー田中（俊）

HR：田中（俊）、秋山（奈多サ）堺（三苦ホ） 2BH：矢野（三苦ホ） 盗塁：長濱、木下、野々下（奈多サ）

夜明けはめっきり遅くなったが陽気に恵まれた奈多グラウンドで、共にリーグ戦を11勝1敗1分で終えた三苦ホーネッツ対奈多サンデーズの平成26年度優勝決定戦（プレーオフ）が行われた。リーグ戦での対戦はサンデーズが終盤追いつき5-5の引き分けだったため、完全決着が期待された。ベストメンバーのホーネッツに対し、サンデーズは若手メンバー4人を欠き、足関節靭帯断裂から復帰の野田選手がレフト、田中孝幹（たかもと）監督自らがセカンドに入るというスクランブル状態。ホーネッツ有利とする見方が強かったが、プレーオフは4戦4勝のサンデーズ。4年前の同対決もサンデーズが勝利している。

試合前の三苦ホーネッツ中村監督の弁



「今日は精一杯頑張ります！」

試合前の奈多サンデーズ田中監督の弁



「打って勝ちます。優勝します！」

先発投手は、9勝で最多勝を獲得したサンデー塚本投手と最終フェニックス戦が不戦勝となり惜しくも最多勝を逃したホーネッツ矢野投手。一回表ホーネッツは一番山崎選手が四球で出塁するとWPで二進。一死二塁で三番矢野選手が右翼へタイムリー二塁打を打ち幸先よく1点を先取するも後続が打ち取られる。サンデーも先頭の川上選手が四球で出塁すると、二番長濱選手がセカンド横を抜くヒットで無死一三塁。ここで三番田中(俊)選手の放った誰もが打ち損じのライトフライ



と思ったあたりは、フラフラと伸び、右翼スタンドに生えている桜の木を直撃する幸運な(?) 3ランとなり思わぬ逆転打となった。おそらく木がなければホーネッツ松尾右翼手が捕っていたであろうが、これも左打者に有利な奈多グラウンドの特徴だ。気落ちした矢野投手に対し続く四番秋山選手の左中間を抜くソロHRが追い打ちを掛け、五番野々下選手もライト前と4連打。辛くも後続を3連続三振で断つが初回4失点。追いつきたいホーネッツは二回表二死から八番前園選手が高目の見逃せばボールの球を執念でレフト前へ弾き返すと、リーグ戦終盤に当たりが戻った九番堺選手が低目の球を見事ライトスタンドに突き刺し、3-4と1点差に迫る。続く一番山崎選手がバントヒットで出塁し、盗塁が考えられたが走れず終まで終了。1点差に迫られたサンデーは、矢野投手に二~五回を三人ずつで切って取られ追加点を奪えない。一方ホーネッツも毎回ヒットでランナーを出すも、サンデー塚本投手に対し三~六回まで無得点。残り時間も気になり、三人で片付けて七回表の攻撃に望みをつなげたいホーネッツだったが、六回裏サンデーは一死から四番秋山選手がセンター前、続く野々下選手もライト前で続き一三塁とする。ここで焦りが生んだ痛恨のPBでサンデーに待望の追加点が入る。矢野投手はこれで気落ちしたのか、緊張の糸がぷつっと切れたのか続け様に二つの四球を出したところで無念のタイムアップ。奈多サンデーの二連覇が決定したこの瞬間、わっと駆け出した選手の輪が出来、共に抱き合う奈多サンデー選手達。一方この試合に掛ける意気込みはサンデーを凌いでいたホーネッツの落胆の色は大きかった。しかし、そこは四月の開幕から一年間共に切磋琢磨してきた同じ和自ソフトボールリーグの仲間。両チーム共に健闘を称え合い、観客からも惜しみない拍手が贈られた。

試合後のホーネッツ中村監督の弁



「残念です、負けました。歯がゆいです。
来年はもちろん優勝を狙います！」

試合後のサンデー田中監督の弁



「お陰様で無事優勝することが出来ました。サンデー初の
連覇を達成し、来年は前人未達の三連覇を達成します！」

奈多サンデー優勝で幕を閉じたこの瞬間から、既に全チームの来年への戦いが始まった。



奈多サンデーズ先発、最多勝の塚本投手。



一回表、四球後WPで二進するホーネッツ一番山崎選手。



一死二塁からライトヘタイムリーを放った三番矢野選手。



先制のホームへ駆け込む山崎選手。



ホーネッツ先発の矢野投手。



一回表、四球を選ぶサンデーズ一番川上選手。



サンデーズ二番長濱選手がセンター前ヒットを放つ。



初回から無死一三塁のチャンスを迎える。



迎えた三番田中（俊）選手がライトへ犠牲フライ・・・？



フラフラと舞い上がった打球はライトの木を直撃のHR。



まさか入るとは、苦笑いでベースを一周する田中（俊）選手。



逆転打の田中（俊）選手を出迎えるサンデーズベンチ。



続く四番秋山選手は初球のチェンジアップに空振り。



追いつまれて左中間にソロHRを放ち無死で4点目。



五番野々下選手もライト前を放つが、後続は3連続三振に取られる。



二回表、二死からレフト前を放つホーネットス八番前園選手。



1点差に迫る2ランをライトスタンドへ放った九番堺選手。



笑顔でホーネットスベンチに戻る堺選手をお出迎え。



攻撃の手を緩めずバントヒットを狙う山崎選手。



その駿足で一塁を駆け抜ける山崎選手。



白熱した試合を見守る一塁側のWSL選手達。



三塁側奈多サンデーズを見守るレッドサンデーズの面々。



三回表、レフト前ヒットを放つホーネットス四番広木選手。



六番今田選手の痛烈な打球も野々下一塁手のミットへ。



四回表、二死からバントヒットを決める堺選手。



五回表、二打席連続レフト前の広木選手。しかし得点には至らず。



五回裏、一番川上選手の痛烈な当たりがセンターへ。



タイミングよくジャンプ一番、山崎中堅守がキャッチ！



六回裏、初回以来の安打を放つ四番秋山選手のセンター前。



五番野々下選手も狭い二塁間を抜き一三塁とする。



ここでホーネット広木捕手、痛恨のパスボール。



秋山選手が待望の5点目のホームイン。



続いて2四球を出したところで、タイムアップで試合終了。



接戦の末、3-5 Xで奈多サンデーズが連覇達成。



奈多サンデーズ田中孝幹監督を歓喜の胴上げ。



続いて奈多サンデーズ富安巧会長を胴上げ。

第27週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第27週、11月23日は平成26年度優勝決定戦（プレーオフ）が行われました。

今年最後の三連休の真ん中で行われたこの試合は、天候にも恵まれ伸び伸びとプレーするには絶好の環境。しかし、この一年の総決算であるこの試合にかける選手の意気込みは、天候に関係なく漲っていました。

まだ夜も明けきれぬ6時集合でグラウンド整備、審判、記録、応援、観戦に来られたWSL執行部、各運営委員、チームのご家族、未来の和自リーガーの方々ありがとうございました。

さて、試合は二回を終わって3-4と序盤から点の取り合いでしたが、中盤は両投手、守備が踏ん張り膠着状態。75分を過ぎて新しいイニングに入らないという規定から早く七回に入りたい先攻のホーネッツに対し、六回裏をしっかりと攻撃して勝ちたい1点リードのサンデーズ。一死を取るも二連打からPBにて1失点、さらに2四球を与えたところで無念のタイムアップ。結局3-5 xでサンデーズが二連覇を達成しました。

この試合のポイントはどこにあったのでしょうか？

まず戦力的に言うと、フルメンバーのホーネッツに対し、サンデーズは若手の欠場、普段試合に出ない田中監督の二塁手としての出場。ベンチには還暦を超えた超ベテラン3人のみという圧倒的不利な状況。

両チームの準備状況は、毎日曜日は5時半に集合、遅れてきた選手は全員に缶コーヒーをおごるというチーム内ルールがあるというホーネッツは、きちんと6時からグラウンドで既に臨戦態勢。一方サンデーズは奈多団地A公園に6時集合、支度を整えてグラウンドへ移動。6時15分にやっと体を動かし始めるといったのがルーチンワーク。

リーグ戦を通して、数字上は攻撃力も投手力もホーネッツが上回っている状況でした。

私もホーネッツ有利かと思っていました。

しかし、蓋を開けてみれば、初回の攻防で決まったと言っても過言ではない試合内容。これは2年前のプレーオフ、フェニックス対パイレーツ戦と同じだという感覚に捉われたのは私だけではないと思います。

「プレーオフ慣れ」「優勝慣れ」というものがあるとするならば、まさにその言葉が相応しい試合だったと思います。

プレーオフを過去三回戦って、三回とも勝っているサンデーズに今回も勝利の女神が微笑みました。

私が奈多サンデーズからレッドサンデーズに移籍したから二年で二回の優勝。

羨ましくも、力強い奈多サンデーズを対戦チームとして眺めての感想は、

決して勝てないチームではない。

しかし、勝つための「考え方」と「技術」と「運」を持っている。
それは一年間のリーグ戦然り、プレーオフの一発勝負然りだ。

ということです。

さあ、来年はどのチームが奈多サンデーズの三連覇を阻止するのか？

奈多サンデーズはどのような戦いをするのか？

三苦ホーネッツのリベンジはあるのか？

このHPはどこまでも熱くWSLを追い続けます。

一月に延びた納会でも一年間の激闘映像を流しますので、皆さんお楽しみに！

